

千葉県で見つかった日本新産の地衣類  
コフキカクレホウネンゴケ (*Sarcogyne regularis*)

・・・ 原田 浩/ 2020.05.



2017年6月、日本地衣学会の学術誌ライケノロジー (*Lichenology*) に、それまで日本から記録がなかったコフキカクレホウネンゴケを千葉県で発見し、発表しました。

この地衣類は、千葉県中～南部 (市原市, 富津市, 鋸南町) の丘陵地で、日当たりのよい場所のもろい岩の上に生きていました。カクレホウネンゴケ属 (*Sarcogyne* サルコギネ) の一員で、地衣体は岩の内部に隠れて見えず、黒っぽい皿状の子器だけが岩の表面に散在しています。真っ黒に見える子器を拡大すると、やや赤みを帯びているのが特徴です。また、しばしば表面は白っぽい粉霜で覆われています。

子器の縦断切片をプレパラートにして生物顕微鏡で観察すると、胞子を作る子嚢という袋が見えます。ほとんどの地衣類 (子嚢菌類) は、1つの子嚢の中に8個の子嚢胞子を作るのですが、本種が属すホウネンゴケ科では、100個以上の子嚢胞子ができる種も珍しくなくて、本種も例外ではありません。この地衣が見つかったのと同じような場所で、似た地衣類を見つけたら、子嚢の中の胞子の数がとても多いことを観察すると、同定は確実です。

掲載論文： 原田浩/ 2017/ 日本新産のホウネンゴケ科地衣類, コフキカクレホウネンゴケ (*Sarcogyne regularis*). / *Lichenology* 16(1): 81-85.

調査研究事業： 地域研究課題「房総の地衣類誌」・重点研究課題「房総丘陵の自然—過去, 現在, 未来—: 植物学」